

兵庫教育大学 教職大学院 『教育実践高度化専攻』

(授業実践課題探究コース)

実習基本計画

令和6年4月

目 次

実習生としての心得

実習の基本計画（授業実践課題探究コース）

1 実習の目的	1
2 実習科目	1
3 実習校（連携協力校）	1
4 科目別の実習内容，指導体制，評価方法等	2
5 実習資料の様式	6
授業実践課題探究コースにおけるカリキュラム配置モデル	18

実習生としての心得

【 実習に対して 】

1. 身だしなみと言動

- ・ 服装や髪型は、幼児、児童・生徒への影響を考え、教師をめざす実習生らしいものとする。
- ・ 乱暴な言葉使いや粗暴な態度はしないこと。

2. 意欲と態度

- ・ 実習期間中は、熱意をもって意欲的な態度で取り組むこと。

3. 専念

- ・ 実習期間中は実習に専念し、部活動やアルバイト等を行わないこと。

4. 指導教員からの指導や助言

- ・ 実習先の指導教員からの指導や助言、忠告に対しては、快くこれを受け入れること。

5. 健康管理

- ・ 健康には十分留意し、節度ある生活を行うこと。

6. 時間管理

- ・ 出勤時刻や提出物の期限等は、必ず厳守すること。

7. 守秘義務

- ・ 実習を通じて知り得た情報は、SNSを含め絶対に外部に漏らさないこと。

8. 喫煙

- ・ 実習先では喫煙しないこと。

【幼児、児童・生徒に対して】

1. 態度

- ・幼児、児童・生徒の前では実習生間の私的な会話を慎み、絶えず教育者としての態度で接すること。

2. 私的な交流

- ・幼児、児童・生徒との私的な交流（SNS、電話、メール、自宅への訪問、物品等の受け渡し等）はしないこと。

3. 体罰や暴言

- ・幼児、児童・生徒への体罰や暴言は絶対にしないこと。

4. 健康管理や安全指導

- ・幼児、児童・生徒への健康管理や安全指導に特に留意すること。

5. 実習先以外での接触

- ・実習先の指導教員の許可なく、実習先の外へ幼児、児童・生徒を引率したり、呼び出したりしないこと。

【実習校に対して】

1. 実習時間

- ・実習の開始時間や終了時間は、実習先の勤務時間や勤務形態に合わせて行うこと。

2. 病気等による欠席

- ・無断欠席は絶対にしないこと。
- ・病気等により、やむを得ず欠席する場合は、速やかに実習先の指導教員に必ず連絡すること。

3. 物品等の使用

- ・実習先の許可を得て使用し、使用後は責任をもって後片付けをすること。
- ・実習先のパソコンを使用させてもらう場合は、ウィルス感染防止のため、勝手に私物のUSBメモリ等を接続しないこと。

4. 書類等の持ち出し

- ・実習先の許可を得ずに、書類や物品等を実習先の外に持ち出さないこと。

実習の基本計画（授業実践課題探究コース）

1 実習の目的

本コースでは、高度な実践的学修を行い、次のような教員の育成を目的としている。

- ① 学校教育の抱える諸問題を踏まえ、大学院生自身、又は同僚教員の教育実践を対象化してリフレクションできる教員
- ② 優れた実践的指導力を備え、同僚や若年教員に対して指導的役割を果たし得る教員
- ③ 学校教育の抱える諸問題を踏まえ、学校教育においてリーダーシップを発揮できる教員
- ④ 教育専門職の高度な知識・技能に加え、実践研究の推進力・開発力を備えた教員

このような本コースの目的を達成するために、専門科目とともに実習科目を設定し、それらの一体的な関連指導によって、高度な実践的学修の実現をめざしている。

2 実習科目

実習科目は、以下の2科目である。科目名、単位数（時間数）、実施時期は以下のとおりである。

実習科目	単位数（時間数）	配当年次
学校教育基盤実習	4 単位（120 時間）	1 年次または 2 年次
学校教育開発・改善実習	6 単位（180 時間）	2 年次

実習の実施時期

実習科目	実施時期
学校教育基盤実習	1 年次に 120 時間実施することを原則とする。 なお、実習校の実情等に応じて実施することを可能とする。
学校教育開発・改善実習	2 年次に 180 時間実施することを原則とする。 なお、実習校の実情等に応じて実施することを可能とする。

※ 実施時期については、上記を原則とするが、実習先の事情等に応じて柔軟に対応する。

3 実習校（連携協力校）

原則として、現任校において実習を行う。ただし、特に理由のある場合は、協議して定める学校で実習を行う。

現任校を持たない大学院生は、原則として連携協力校において実習を行う。

4 科目別の実習内容、指導体制、評価方法等

学校教育基盤実習

(実習目的)

学校教育の課題を踏まえ、リフレクション科目の内容と関連した理論的知見や実践的方法・技術等の定着・向上を図り、学校教育開発・改善実習の実践的・研究的基盤を形成する。具体的には、実習を通じて実習校において取り組まれている課題を把握するとともに、自己のリフレクション能力向上の方向性を探る。

(実習内容)

実習実施前に、大学指導教員と実習校指導教員（メンター）と大学院生で個別実習計画を作成する。

実習内容は以下の通りである。

- (1) 実習校で、校長・教頭、主幹教諭、教諭等の監督の下、リフレクションを通して、大学院生自身、又は同僚教員の教育実践の改善を中心とした取組を実施する。
- (2) 実習校の教育実践研究に参加することにより、児童・生徒理解とともに学校現場での研究推進や実践開発等にかかわる基礎的・基本的な知識・技能等を修得する。
- (3) 実習校の教育活動に参加することにより、学校教育開発・改善実習に関連する児童生徒理解や授業開発の方法、実践研究の進め方等にかかわる基礎的な知識・技能等を修得する。

(指導計画・体制)

- (1) 実習計画の作成・実施にあたっては、大学指導教員が助言・指導し、スーパーバイザーの役割も果たす。
- (2) 実習校に「実習校指導教員（メンター）」を依頼する。
- (3) 実習にあたっては、上記の大学指導教員と実習校指導教員（メンター）が緊密に連携して、実習校の実情に即した実践研究がなされるよう、大学院生に助言・指導する。

(実習の概要)

- (1) 個別計画の作成準備
 - ① 実習における学修目標や課題、体験の内容等を明確化する。
 - ② 実習校の現状を把握・理解する。
- (2) 実習時期・内容の決定
 - ① 大学院生は大学指導教員と実習時期・内容について打合せを行う。
 - ② 大学指導教員は実習校に出向き、実習時期・内容を確定する。
※実習校との打合せの日時、実習時期の決定については、実習校のスケジュールを最優先すること。
 - ③ 実習開始の1か月前までに、大学院生と大学指導教員は、実習校に出向き、実習時期・内容を決定する。

(3) 実習に関する諸資料について

① 実習計画 [様式(1)－①]

・大学院生は大学指導教員の指導を受け、様式(1)－①を作成する。

② 実習日誌・出席簿 [様式(2)－①]

・大学院生は、様式(2)－①の実習日誌を毎日記入する。

・実習校指導教員(メンター)等からの指導内容の記録は、その内容について実習校指導教員(メンター)等の確認を受け、指導・修正事項があれば、大学院生が必要に応じて修正する。

・大学指導教員の訪問指導を受けた場合は、教員の名前と指導内容を記録する。

・実習校指導教員(メンター)等のコメントの記載は、最終日のみとする。

・大学院生は、出席簿を作成し、出席日に押印する。

③ 評価票 [様式(3)－①]

・実習校指導教員(メンター)および大学指導教員は、様式(3)－①により、大学院生の実習の成果を評価する。

(4) 実習に関する諸資料の提出について

実習に関する諸資料の提出先と提出時期は、次のとおりである。

① 実習計画書

実習校と大学指導教員：実習1週間前

② 実習日誌

大学指導教員：実習後すみやかに

③ 出席簿

大学指導教員：実習後すみやかに

(評価方法)

実習校指導教員(メンター)による成績評価と大学指導教員の評価を合わせ、最終的にはSからFの5段階で総合的に評価する。

S(90点～100点)、A(80点～89点)、B(70点～79点)、C(60点～69点)、F(59点以下)とし、SからCまでを合格、Fを不合格とする。

評価項目については、実習資料の様式の「学校教育基盤実習 評価票」を参照。

(実習目的)

「学校教育開発・改善実習」（必修6単位）における実習内容と実習校の研究テーマや指導可能なテーマとのマッチングを行った上で、実習校の研究推進等に貢献できるように実習校において教育実践を行い、学校現場で教員に求められる資質・能力を育成すること、及び教育実践を介した大学院生のリフレクション能力の向上を目的とする。また、実習校の実践研究に参加することを通して、学校現場での研究推進や実践開発等にかかわる資質・能力を育成することを目的に加える。

具体的には、実習を実施する前年度のうちに目的・課題を明確化した上で実習計画の概要を作成し、実習校と連携を図る。

(実習内容)

- (1) 実習校の教育実践研究や実践上の課題に関連したテーマと関連付けた実習を行う。
- (2) 授業において学んだ理論的枠組を基盤に、学校現場の現実に対応した実践研究を行うことにより、学校教育における実践的な力量を向上させる。
- (3) 実習校の研究課題を探究する具体的な活動の展開を通して、リフレクション能力を向上させる実習を行う。

(指導計画・体制)

- (1) 実習計画の作成・実施にあたっては、大学指導教員が助言・指導し、スーパーバイザーの役割も果たす。
- (2) 実習校に「実習校指導教員（メンター）」を依頼する。
- (3) 実習にあたっては、上記の大学指導教員と実習校指導教員（メンター）が緊密に連携して、実習校の実情に即した実践研究がなされるよう、大学院生に助言・指導する。

(実習の概要)

- (1) 個別計画の作成準備
 - ① 実習における学修目標や課題、体験の内容等を明確化する。
 - ② 実習校の現状を把握・理解する。
- (2) 実習時期・内容の決定
 - ① 大学院生は大学指導教員と実習時期・内容について打合せを行う。
 - ② 大学指導教員は実習校に出向き、実習時期・内容を確定する。
※実習校との打合せの日時、実習時期の決定については、実習校のスケジュールを最優先すること。
 - ③ 実習開始の1か月前までに、大学院生と大学指導教員は、実習校に出向き、実習時期・内容を決定する。

(3) 実習に関する諸資料について

① 実習計画 [様式(1)－②]

・大学院生は大学指導教員の指導を受け、様式(1)－②を作成する。

② 実習日誌・出席簿 [様式(2)－②]

・大学院生は、様式(2)－②の実習日誌を毎日記入する。

・実習校指導教員(メンター)等からの指導内容の記録は、その内容について実習校指導教員(メンター)等の確認を受け、指導・修正事項があれば、必要に応じて大学院生が修正する。

・大学指導教員の訪問指導を受けた場合は、教員の名前と指導内容を記録する。

・実習校指導教員(メンター)等のコメントの記載は、最終日のみとする。

・大学院生は、出席簿を作成し、出席日に押印する。

③ 評価票 [様式(3)－②]

・実習校指導教員(メンター)および大学指導教員は、様式(3)－②により、大学院生の実習の成果を評価する。

(4) 実習に関する諸資料の提出について

実習に関する諸資料の提出先と提出時期は、次のとおりである。

① 実習計画書

実習校と大学指導教員：実習1週間前

② 実習日誌

大学指導教員：実習後すみやかに

③ 出席簿

大学指導教員：実習後すみやかに

(評価方法)

実習校指導教員(メンター)による成績評価と大学指導教員の評価を合わせ、最終的にはSからFの5段階で総合的に評価する。

S(90点～100点)、A(80点～89点)、B(70点～79点)、C(60点～69点)、F(59点以下)とし、SからCまでを合格、Fを不合格とする。

評価項目については、実習資料の様式の「学校教育開発・改善実習 評価票」を参照。

5 その他

(実習資料の様式)

(1) 実習の個別計画表

- ・学校教育基盤実習 個別計画書……………様式(1)－①
- ・学校教育開発・改善実習 個別計画書……………様式(1)－②

(2) 実習日誌

- ・学校教育基盤実習 実習日誌……………様式(2)－①
- ・学校教育開発・改善実習 実習日誌……………様式(2)－②

(3) 実習評価票

- ・学校教育基盤実習 評価票……………様式(3)－①
- ・学校教育開発・改善実習 評価票……………様式(3)－②

学校教育基盤実習 個別計画書

授業実践課題探究コース

大学院生氏名		学籍番号	
大学院生連絡先			
実習期間	年 月 日～ 年 月 日		
実習校名 (住所・電話)	〒 TEL		
実習校指導教員 (メンター)	連絡先：		
大学指導教員	連絡先：		
実習校の概要	学校規模, 教育目標, 特色ある取 組等		
実習テーマ			
実習校の研究課題と各自の実習テーマとの関連性・共通性等			

実 習 の 実 施 計 画	第 1 日 (月 日)
	第 2 日 (月 日)
	第 3 日 (月 日)
	第 4 日 (月 日)
	第 5 日 (月 日)
	第 6 日 (月 日)
	第 7 日 (月 日)
	第 8 日 (月 日)
	第 9 日 (月 日)
	第 10 日 (月 日)
	第 11 日 (月 日)
	第 12 日 (月 日)
	第 13 日 (月 日)
	第 14 日 (月 日)
	第 15 日 (月 日)
	第 16 日 (月 日)
	第 日 (月 日)
第 日 (月 日)	
第 日 (月 日)	
第 日 (月 日)	

学校教育開発・改善実習 個別計画書

授業実践課題探究コース

大学院生氏名		学籍番号	
大学院生連絡先			
実習期間	年 月 日～ 年 月 日		
実習校名 (住所・電話)	〒 TEL		
実習校指導教員 (メンター)	連絡先：		
大学指導教員	連絡先：		
実習校の概要	学校規模， 教育目標， 特色ある取 組等		
実習テーマ			
実習校の研究課題と各自の実習テーマとの関連性・共通性等			

実 習 の 実 施 計 画	第 1 日 (月 日)
	第 2 日 (月 日)
	第 3 日 (月 日)
	第 4 日 (月 日)
	第 5 日 (月 日)
	第 6 日 (月 日)
	第 7 日 (月 日)
	第 8 日 (月 日)
	第 9 日 (月 日)
	第 10 日 (月 日)
	第 11 日 (月 日)
	第 12 日 (月 日)
	第 13 日 (月 日)
	第 14 日 (月 日)
	第 15 日 (月 日)
	第 16 日 (月 日)
	第 17 日 (月 日)
	第 18 日 (月 日)
	第 19 日 (月 日)
	第 20 日 (月 日)

実 習 の 実 施 計 画	第 21 日 (月 日)
	第 22 日 (月 日)
	第 23 日 (月 日)
	第 24 日 (月 日)
	第 25 日 (月 日)
	第 26 日 (月 日)
	第 27 日 (月 日)
	第 28 日 (月 日)
	第 29 日 (月 日)
	第 30 日 (月 日)
	第 日 (月 日)
	第 日 (月 日)
	第 日 (月 日)
	第 日 (月 日)
	第 日 (月 日)
	第 日 (月 日)
	第 日 (月 日)

学校教育基盤実習 実習日誌

年 月 日 (曜日)

1. 本日の目標

2. 本日の内容

時限等	メンター等の氏名	内 容

3. 実習校指導教員（メンター）からの指導内容（大学院生が記録する。）

4. 主な出来事（気づき、感動、疑問）と、その考察・反省

5. 実習全体を通じての考察・反省

6. 実習校指導教員（メンター）による指導助言

(1) 実習校指導教員（メンター）の指導助言

氏名 _____

(2) 大学指導教員のコメント

氏名 _____

学校教育開発・改善実習 実習日誌

年 月 日 (曜日)

1. 本日の目標

2. 本日の内容

時限等	メンター等の氏名	内 容

3. 実習校指導教員（メンター）からの指導内容（大学院生が記録する。）

4. 主な出来事（気づき，感動，疑問）と，その考察・反省

5. 実習全体を通じての考察・反省

6. 実習校指導教員（メンター）による指導助言

(1) 実習校指導教員（メンター）の指導助言

氏名 _____

(2) 大学指導教員のコメント

氏名 _____

学校教育基盤実習 評価票

兵庫教育大学大学院
授業実践課題探究コース

学籍番号 _____

氏 名 _____

太枠内のみ実習校で記載をお願いします。

	評 価 項 目	実習校指導教員	※大学指導教員
1	実習の活動状況（出席や態度）	/ 10	/ 10
2	実習計画	/ 10	/ 10
3	実習日誌	/ 10	/ 10
4	実習校への貢献	/ 10	/ 10
5	実習内容と実習テーマとの関連	/ 10	
	実習内容とリフレクション科目との関連		/ 10

年 月 日

実習校名：

実習校指導教員 _____ 印

総合評価点※

--

実習校校長 _____ 印

年 月 日※

大学指導教員※ _____ 印

(S : 100~90点, A : 89~80点, B : 79~70点, C : 69~60点, F : 59点以下)

※印は大学使用欄です。

学校教育開発・改善実習 評価票

兵庫教育大学大学院
授業実践課題探究コース

学籍番号 _____

氏 名 _____

太枠内のみ実習校で記載をお願いします。

	評 価 項 目	実習校指導教員	※大学指導教員
1	実習の活動状況（出席や態度）	/ 10	/ 10
2	実習計画	/ 10	/ 10
3	実習日誌	/ 10	/ 10
4	実習校への貢献	/ 10	/ 10
5	実習内容と実習テーマとの関連	/ 10	
	実習内容とリフレクション科目との関連		/ 10

年 月 日

実習校名：

実習校指導教員 _____ 印

総合評価点※

実習校校長 _____ 印

年 月 日※

大学指導教員※ _____ 印

(S : 100~90点, A : 89~80点, B : 79~70点, C : 69~60点, F : 59点以下)

※印は大学使用欄です。

授業実践課題探究コースにおけるカリキュラム配置モデル

年次	科目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1 年 次	共通基礎科目 ・ 専門科目	共通基礎科目					共通基礎科目							
		専門科目					専門科目							
		リフレクション科目（2年間で4単位：通年隔週開講）												
	実習科目											I 集中 4W (120H) (1月～3月の間で実施)		
2 (3) 年 次	共通基礎科目 ・ 専門科目	共通基礎科目					共通基礎科目							
		専門科目					専門科目							
		リフレクション科目（2年間で4単位：通年隔週開講）												
	実習科目			II [パターン②] 集中 3W (90H)				II [パターン①] 集中 6W (180H)			実習の時期は現任校又は連携協力校と協議して決定する。協議の結果、実習の時期が変更となる可能性がある。 [実施例] パターン①を原則とするが、事情等によりパターン②のように実習期間を分けて実施することもある。			

I 実習科目「学校教育基盤実習」(4単位:120時間) 実務経験等によって免除することができる。

II 実習科目「学校教育開発・改善実習」(6単位:180時間) 実務経験等によって免除することができる。